

よこはまユースレター

横浜市青少年育成センター 横浜市野島青少年研修センターの 指定管理者の候補者に選定されました！

横浜市青少年育成センターの第4期指定管理者ならびに横浜市野島青少年研修センターの第3期指定管理者に当法人が応募した結果、指定管理者の候補者に選定されました。今後は横浜市会の議決を経て正式な指定管理者に指定される予定です。

*指定管理期間：

平成28年4月1日～平成33年3月31日【5年間】

なお、横浜市青少年交流センターについては、耐震診断において「地震の震動及び衝撃に対して倒壊または崩壊する危険性がある」とされていることから、横浜市耐震改修促進計画における耐震化の期限である平成27年度末をもって閉鎖されます。交流センターの代替策として横浜市では、「青少年の交流・活動支援事業」を桜木町駅前の「ぴおシティ」で実施する予定です。

参加者の声

賛助会員対象「陶芸教室」 20年目にして初活動

(11月7日・8日・22日)

田野井 伸泰さん(20年会員)



『よこはまユースレター』は毎回目を通しておりましたが、皆様の活躍を知る程度で自分からなにか事業に参加することもなく20年が過ぎました。今回自分に興味がある事業が開催されお伺いしました。会員非会員問わず和気藹々、講師の先生と楽しく陶器制作ができました。

こういう形あるものが残り、20年目にしてよこはまユースがものすごい近い存在に感じました。これを機会にまたなにか事業に参加したいと思います。趣旨に賛同し会費を払うだけではなく施設で団体が活躍する姿、子どもたちがいきいき過ごす姿を見て二重三重に参加してよかったです。



青少年育成寄附金募集事業 第55回 爆笑！濱っ子寄席

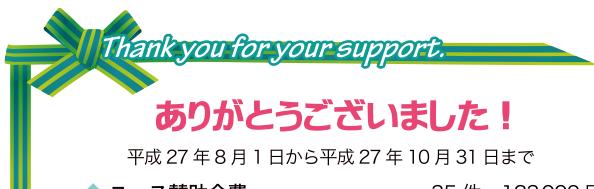
(11月13日、関内ホール)

昨年を越える787人のお客様に楽しんでいただき、盛会のうちに終了しました。これもひとえに、ご来場いただいたお客様をはじめ、青少年育成活動に賛同して集まっていた実行委員の皆さんと、多くの企業・団体の皆様のご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。



中入りには柳家さん光さんと柳家ほたるさんが募金の呼びかけに協力してくださいました。落語で鍛えた声量のある掛け声がとても頼もしいお二人。そして募金をしていただいたお客様には、なんとその場で「小噺」のプレゼントが！お二人のおかげで、多くの募金を集めることができました。事業の収益と募金は、青少年育成を支援する活動や事業に活用させていただきます。

- ◆出 演 者／柳家さん光、ぴろき、三遊亭歌之介、ケーシー高峰、柳家喬太郎、柳家権太樓(出演順)
- ◆事業収益／300,000円(見込み)
- ◆募 金 箱／64,127円



ありがとうございました！

平成27年8月1日から平成27年10月31日まで

◆ユース賛助会費	35件	123,000円
◆特定寄附金	合計	35件 35,000円
【内訳】わくわく・生活体験キャンプ		9,000円
野島クリスマスキャンプ		16,000円
ハートフルスペース		10,000円
◆一般寄附金	29件	29,000円

寄附金協力者（日付順、敬称略）

【団体名】 神奈川県鉄道協同組合／金港交通（株）／京浜サービス（株）／特定非営利活動法人ともに浜をつくる会／西区ジュニアリーダースクラブ／

公益社団法人横浜中法人会／横浜市立吉原小学校PTA／旭区子ども会育成連絡協議会

【個人名】 荒井 総平／新井 春海／石間 千賀子／市原 政喜／大久保 皓司／大槻 恵津子／大槻 哲夫／岡部 サチ子／尾澤 詳憲／鹿島 緑／勝亦 昭次／黒川 靖久／五木田 涼子／榎原 泰子／嶋田 美保／鈴木 千代江／高橋 宣子／玉井 廣道／中村 照代／成田 憲一／橋本 義昭／古澤 竜夫／安田 幸世／山本 亜紀子



寄附金控除が受けられます

よこはまユースへの寄附金（ユース賛助会費や事業指定寄附金。*募金箱は対象外）は、税法上の優遇措置が受けられます。

所得税の還付申告の際に、1月下旬にお送りする「寄附金受領証明書」を添付し、管轄の税務署へご提出ください。

活動レポート

○よこはまユース（本部事業）

みなと体験プログラム

「みるしるぶれる・みなとのしごと」（11月22日）

港に関わる仕事はどんなものがあるんだろう？ 横浜に住んでいても、意外と知らないことがたくさんあります。そんな港の仕事を子どもたちが知るきっかけになってほしいという目的のもと、山下公園で開催しました。当日は、港の仕事紹介以外にも、横浜港の歴史にふれるフォトラリーやマリンシャトル乗船会、子どもの体験活動の紹介など様々なプログラムに、およそ800人の参加がありました。



○横浜市青少年交流センター

ユースワーカーの卵たちが活躍

～社会教育実習生の受け入れ～（8月2日～10月31日）

今年は明治大学、神奈川大学、駒澤大学の総勢11人の実習生を受け入れました。施設での青少年や利用者対応の他に、周辺地域を廻り、青少年の現状や生活環境、青少年支援の役割を実体験し考える体験をしました。

2週間という短い期間でしたが、多様な人々との“ふれあい”を通して、実習生の全員が「人が好きになりました」という感想を持ってくれました。青少年施設として大切な「人と関わる楽しさ」と「人と関わる力」を伝えられたのではないかと感じています。

◀実習生の制作作品



○横浜市野島青少年研修センター

「もし大きな災害がおきたら、どうしたらいいの…？」親子de防災キャンプ

（11月14日～15日）

7家族22人、横浜市金沢区災害ボランティアネットワークと関東学院大学の学生たち、合計33人が一緒に第1研修室に段ボールと毛布で一夜を過ごしました。

当日は、横浜市で震度5強から震度7の地震が発生し、水道・ガス・電気が使用できないという被害を想定し、配給された水は1人あたり2リットル。水は飲み水だけでなく洗顔や朝食作りにも使用しました。

段ボールを使った寝場所づくりからはじまり、非常用炊出袋を使った食事づくり、金沢区役所総務課危機管理担当係長による避難場所や避難袋など防災についての話、身近なものを活用した応急処置など、防災について体験し、家族で話し合う2日間となりました。

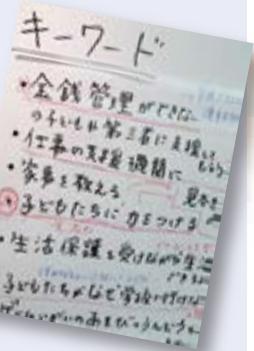
○横浜市青少年育成センター

ユースコーディネーター養成研修

「知ることから始めよう～困難を抱える子どもの思い」

（10月15日・29日、11月13日・27日全4回）

困難を抱える青少年と地域をつなぐ人材を養成することを目的にした研修の今年のテーマは、「虐待」「ひとり親」「性的少数者（LGBT）」「発達障がい」。どのテーマも反響が大きく、延べ240人の参加者が講義やワーク、情報交換を通して熱心に学びました。



○放課後キッズクラブ

さつまいも収穫体験—瀬谷さくら小放課後キッズクラブ—

（10月31日）

学校目の前にある農家さんの畑をお借りし、夏にはとうもろこし、秋には落花生・さつまいもと、今年は3つの作物の収穫体験をさせていただきました。

掘っても掘ってもおいもが出なくてがっかりする子、「大きいのがとれた！」と喜ぶ子、土の中から虫が出てきて、きゃーきゃーウイワイ…。子どもたちなりに自然を感じ、楽しんでいました。小ぶりのおいもで作った大学いもは、おやつとしておいしくいただきました。

